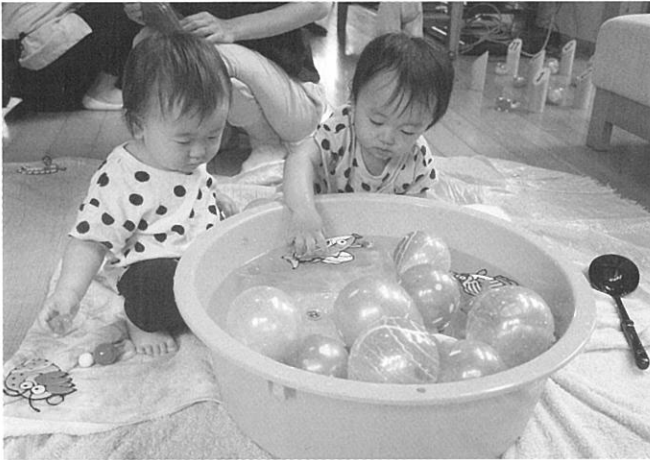


令和3年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞

# 「誰も取り残さない！」日本一広い市 だからこそ地域ぐるみで子育て支援

岐阜県高山市 特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会



14 回開催したミニミニサマーフェスティバル

## 活動のきっかけ

東京23区より広い、日本一の面積を有する高山市は、90%以上が森林という地域の中に集落が点在しています。

昨年のコロナ禍、夏に飛騨地方を襲った豪雨災害では、多くの子育て家庭が孤立しました。

健診も赤ちゃん教室も中止になり、どこにも相談できず産後うつになってしまった母親、居場所を失い、家で子どもと二人きりでずっと過ごさうちに、ネグレクトや虐待に陥ってしまった母親、豪雨災害の時は、「私、今赤ちゃんと二人きりなんです！避難した方がいいですか？」と電話をかけてきた母親もいました。

そんな中、私たち自身も子育て当事者であるため、この広い高山市の子育て支援の課題を痛感し、「誰も孤立しない子育て支援環境」を作ることが急務であると感じました。

## 高山市の課題

- ①「ちよっと子どもを預かってほしい」というニーズに対応する、国のファミリーサポート制度のような託児サービスがない。
- ②各支所地域には、まちづくり協議会という自治組織があるが、乳幼児親子を対象とする部会がない。
- ③災害時、川の氾濫や土砂災害により、すぐに集落が孤立してしまい、私たちのようなNPOが支援に赴くことができない。



また、私たちの団体が抱える課題として、  
①スタッフが皆、子育て真っ最中の母親であるため、夕方や夜間はなかなか動きにくい。  
②広い高山市では、NPOが単独で支援活動



ミニミニサマフェスでわらべうた講座



助産師さんと一緒にインスタライブ配信

を行うには限度があり、各地域の組織や人と連携を取って、きめ細やかな事業を行う必要がある。  
ということが挙げられます。

### 「誰一人取り残さない」をキーワードに事業を展開

そこで、昨年のコロナ禍をきっかけにして、私たちは、これまでの活動の軸足を大きく転換して、「誰一人取り残さない」をキーワードに、いろいろな組織、団体、専門家の方々と連携しての事業を展開してまいりました。

#### ① 飲料店と連携しての牛乳加工飲料の宅配

ひとり親家庭、困窮家庭、子どもたちだけで留守番をしている家庭などへ、バナナスムージーを届けて、相談に応じたり、様子を伺ったりしました。224杯のスムージーをお届けしました。

#### ② JAひだと連携して、飛騨に帰省できない学生への農産物配送

コロナによる移動自粛により、飛騨に帰省できない学生に向けて、飛騨の農産物、飛騨の木を使った文房具などを配送しました。約400件お届けさせて頂き、売り上げ115万円は、豪雨災害で打撃を受けた農家の支援に全額充てさせて頂きました。

#### ③ 木工業者、イベント業者と連携して、ミニ



ご寄付頂いた中学、高校の制服をお渡し

#### ミニサマフェスティバル14回実施

市内全ての夏祭りが中止になる中、これまでのような大人数を集めるイベントではなく、20組限定のサマフェスティバルを14回実施し、母親一人一人、子ども一人一人に寄り添う機会を作りました。

#### ④ 助産師さんと連携して、インスタライブ「なおみチャンネル」配信

健診や赤ちゃん教室の休止中、妊婦さん、子育てママに向けて、悩み相談に応じるインスタライブを配信しました。延べ3000回を超える視聴を頂きました。



びい・ぼおサポーター向けオンライン研修

⑤ 市民活動団体と連携して、困窮家庭に制服を届ける「めぐる制服プロジェクト」実施  
 コロナによる収入減により、高校や中学の制服の購入に困難を抱える家庭に向けて、寄付して頂いた制服を届ける事業を実施しました。200枚を超える制服が集まり、困窮家庭にお届けさせて頂きました。

⑥ 行政、まちづくり協議会、NPO法人と連携して、各地域の子育て支援人材を発掘し、託児事業を開始  
 中間支援のNPO、行政、まちづくり協議会と連携して、かねてからの大きな課題だった、託児サービスを始めました。

これは、広い高山市のそれぞれの地域で、子育て支援に動いてくれる人(元保育士や元助産師など)を発掘し、その地域で託児希望があがってきた時は、その地域の支援員が担当できるように、ネットワークを作ることを目指としています。

子育て家庭がその地域の支援員と顔なじみになり、つながりが生まれれば、非常時にも手助けしてもらえます。防災にもつながる大切な事業だと思い、今年度はこの事業に特に力を入れています。

支援員(びい・ぼおサポーター)は、現在40人ほど登録されています。また、この4月

から始まった託児事業、びい・ぼおサポーターでは、1カ月20件を超える依頼があり、サポーターがほぼ毎日出勤しています。  
 びい・ぼおサポーターの皆さんは、ほとんどが子育てが終わった60代以上の女性で、資格も経験も豊富で、「土日でも夕方でも夜でも動けるからね!」と張り切ってくださいっています。

広い高山市の中で「誰一人取り残さない子育て環境」作りの担い手として、共に手を携えて支援活動を行っていきたいと思います。

(特定非営利活動法人 飛騨高山わらべうたの会 理事長 岩塚久案子)

**親子で楽しむ ワイワイカフェ**

子育て中のお母さん  
 一人ひとりが  
 悩んでいませんか?

児童センターが遠くて  
 なかなか子どもをつれて  
 遊びに行けないわ...

よそからお嫁に来たので、  
 子ども連れて遊びに行けるよとか  
 イベントの情報かわからないわ...

子育てのこと  
 気軽に相談できる場所が  
 ないかしら...

そんなお母さんたちの所に  
 私たち「わらべうたの会」が伺います!

どんな事をやるの?

- 親子でたっぷりふれあえるわらべうたおそび
- 飛騨産の木を使ったおもちゃであそぼう!
- 季節のワークショップ
- ほっこりティータイム (子育て情報などいろいろおしゃべりタイム)

どんな所にきてくれるの?

- 高山市内のどこでも伺います (公民館でも個人のお宅でも)
- 親子2組から伺います

主催: NPO法人 飛騨高山わらべうたの会  
 後援: 高山市、高山市社会福祉協議会